

令和7年度知事定例記者会見[抜粋]

令和7年10月17日 知事定例記者会見[抜粋]

○STS

・・・JR 九州の古宮社長がフル規格・・・佐賀県の財政負担の軽減を要請するというような話が出ていると思うんですけど、それについての受け止め・・・お願いします。

○知事

実はこの問題、もちろん財政負担の問題というのは大きな課題であって、今のスキームには無理があるという話は私もさせていただいたし、先だっていろんな話をする中で、水嶋次官ともその意見交換をさせていただきました。ただ、この財政負担だけではなくて、ルートの問題でも隔たりがあったりして、そういった、まだなかなか課題というのは多いんだけど、それでも課題の一つである財政問題について意見をしていただけることになるのか分かりませんが、そういったところが話が進むということであれば、それを注視していきたいと思っています。

○西日本新聞

まず、先ほど質問の出た九州新幹線西九州ルートについて 1 点だけ補足で、鉄道事業者の方が自治体の負担軽減を求めるというのはなかなか珍しいことであるという側面もありますが、その点に関しては JR が言ってくれるというのはありがたいのか、この辺、知事の受け止めとしてはいかがですか。

○知事

この前、3 者で——3 者でというのは、うちと、JR 九州さんと、長崎県さんと佐賀県庁で議論したときに、やっぱりもともとフリーゲージでやると国も言っていたよねって。で——そうそう、ここを一点だけいいですかね、ついでに。

私はこの前、水嶋さんと話したときもちょっと気になっていたのは、フリーゲージはできないかもしれないと言っていたよねと、そんな感じで言われたので、いや、それはないですよと。だって、フリーゲージで認可されて、ずっとその前提に 6 者協議なりが行われてきたので、もともとフリーゲージができないことをほのめかしていたような感じで言う方が今増えているんだけど、改めて言っておきたいんですけど、そんなことは決してありません。私が知事になってからも、フリーゲージやるんだと、それ一点だったので。そこがぐらぐらしてくるとどうかなということをまず前提に。

で、この前、3 者協議で、そこは国の責任ですよと、フリーゲージでやると。国のほうが言ってきたんだから、フリーゲージどうと。スーパー特急だったのに、こういう新しい技術があるから、自信持っているから、大丈夫だからと言って新商品を出してきて、

ならそれでということでやってきたのに、やっぱりごめんなさい、できませんでしたと。それ責任じゃないのということに関してはうちも、JR も、長崎県も一致したんですよ。その上で、じゃ、どう国に言っていこうかという話なんですけれども、そうした中で、フルというのが全く新しい話で、そのときには、やっぱり財政スキームというのはルートと併せて大きな課題の一つだからという話は3者協議でしたので、そうした中でJR九州さんは、自らその考え方を国に話にいこうということかなと私は認識しておりますけれども、そこを、そんな簡単な話じゃないと思うんですけれども、見守っていきたいと思っております。

○佐賀新聞

先ほどフリーゲージの話で、水嶋次官とのお話の中で、水嶋次官はフリーゲージについてどのように知事にお話をされたのか、もう少し教えていただければと。

○知事

2人で話をしたので、メモ取っている人もいませんから、明確には、100%正確には申し上げられないんですけれども、フリーゲージトレインは、もともと開発できるかどうか分からない技術というようなお話だったんですよ。それはそれで初耳というか。そんなことであれば、最初からこんなスキームで佐賀県は了解していたのかなと、ですね。もしそんな、そこが不安定であったならば、最初からそれが開発できなかった場合も協定の中に織り込むはずだし、私が知事になってからも、6者合意で3年後にフリーゲージトレインの先行車両が入ると言ったときにも、それができなかった場合というのをしっかり織り込むはずなので、もちろん噂話では、何か、本当はフルを考えている人もいるんじゃないかという方もおられたんですけど、さすがにそんなことはなかろうと。国がフリーゲージをやるとずっと一貫して言ってきたわけだからということで、我々はその前提でずっと話を申し上げているので、あれはもともとできるか分からない技術のような話というのは、それはちょっと私らとすると、前提が崩れる話なので、問題だと思ったというわけです。

○佐賀新聞

そしたら、例えば国交省側に公式見解を求めるなり抗議をするなりという、何かそういったことはされるか、されたんでしょうか。

○知事

それは副知事とか部長からすぐに連絡したと聞いております。

○朝日新聞

もう一点、ちょっと新幹線に関係しているんですけど、先ほどちょっと県の負担、財政スキームも大きな課題なのでというふうにおっしゃっていたんですけど、例えば、大きく佐賀県の財政負担が何か減るような仕組みが新しくできたとして、ただ、それでも

足りないというか、それはすごく大きなことなのか、それとも知事としてはまだここはいろんな課題の中での一つというぐらいの位置づけなのか、どの程度の重要性を持っていっていいのかわかりたい。かなり財政問題が解決すれば、大きく同意に前進するみたいなの、そういうふうにいるのか。

○知事

財政問題が解決すれば全てが解決するとは全く思っておりません。大きな課題ではありますけれども、全体としての、これはパッケージの問題なので、今はぴくりとも動いていませんから、フル新幹線に乗り出すというのは新たな話なので、それは全体の構図として踏み出す——踏み出すと言ってもですね、これは一つの形として、私がある程度こういう形だったら検討してもいいんじゃないかと思ったとしても、これはもう一度県民に問うてみないといけないと思っているんです、私が決める話ではないので。ただ、少なくとも、今私が県民の皆さん方に提示する案という形になってないということも改めて申し上げたいと思いますし、私がある程度県民の皆さん方に納得させる上で、財政問題というのは一つのファクターであるけれども、それが全てではないということは改めて申し上げたいと思います。

○NHK

すみません、私も発表項目ではなくて、新幹線の話でご質問です。

先ほどから出ていますとおり、先だって事務次官との面会があったかと思います。その際に、フリーゲージの開発の出発点のところですね、一致していないようなということで、過去を調べてみなきゃいかんのかなというふうな言及が先日もあったんですけれども、それを調べた中で、先ほど知事がおっしゃった、明確に佐賀県が了解していたのかなというところの明確な違いが、調べた結果。

○知事

そうですね、私の記憶ではフリーゲージが駄目になるかもしれないということを前提に議論をしたという意識が全くなかったものだから、(地域交流)部にそんなことはないかどうか、改めて調べてという話をさせていただいたところ、全くありませんので、後から歴史が変わっても困るので、そこが崩れると、最初からフルが前提になった——フリーゲージが駄目なときはフルということがあっても議論に乗っていたように思われると、これはあまりにも我々にとってみると、全ての僕らの行為というものの全体が崩れるので、そこはだから、改めて国のほうも調べていただけたらいいかなというふうに思っております。あわせて、先だって藤田さんが来たときも、6 者合意したときに、できないかもしれないということが前提だったみたいな話を私にされたので、それは違うでしょうと、当事者なんだから、全くそんな話はなかったの、3 年遅れるという話だけだったから、だから、何となく不思議な雰囲気を感じているんです。なので、そこはしっかり押し返していきたいと思う。

○NHK

となると、国が言う責任という言葉の本質といいますか、佐賀県として知事が責任というところの認識のずれというか、そういったところも。

○知事

そうですね、だから、僕らからすると、いつも申し上げているように、発注したものが届いていないとここで私は申し上げているじゃないですか。だけど、届かないかもしれないと言っていたと今さら言われて、私にとってみたら発注したものが届かないことというのは1つの大きな責任だよねということで、それはJRさんも長崎県さんも一致しているわけなんですよ。なのに、いや、国の責任はネットワークをつなぐことだと。えっ、国の責任はネットワークをつなぐことなんですかねと、それだから、責任の言葉が違って使われている。でも、石破さんはそれを分かって佐賀県のことも分かると言っていたいたのかなと私は思っていたので、鉄道局とか水嶋さんの話というものは、もう一回解説いただかなければいけないかなとは思っています。

○NHK

同じ国としても、それぞれにおっしゃっている本質、責任という言葉の持つ、ちょっと違っている。

○知事

そうそう。だから、基本的に人がね、国のほうの鉄道局の人も、人事異動で変わっているし、佐賀県庁も変わっているじゃないですか。結構長くいるのは水嶋さんと私なので、だから、そこがずれると話がしっかりかみ合わなくなってくるので、そこは大事にしたほうがいいかなと思うので、もしかしたら、我々も検証してみて自信を持っていますけど、フルの話なんかなかったというのは。ただ、フリーページができないかもしれないと言っていたという記録があるなら、国のほうからも出していただいて、そしたら、我々もそこはもう一回整理しなおさなければいけないので、ぜひご提示いただきたいと思います。

○日経新聞

新幹線に関連して確認なんですけれども、ずっと知事はそうやっておっしゃっていて、国の責任であったりその財政問題だったり、地域の鉄道の利便性、いろいろな問題がありますよねというのを今までいろいろなチャンネルですり合わせてきて、ここは問題だというのは佐賀県としてはずっと言ってきたと思うんですけれども、何か最近の動きを見ると、じゃ、財政難、財政問題、負担問題なんだろうとか、ルートの問題なんだろうと、またちょっと違う、佐賀県が言ってきたものとは違うところの出発点のものを言い出しているような気がして、知事は常々すごく複雑な方程式であって、これを解くのは非常に難しい。だから、意見のすり合わせと問題を提起していきなさいいけない

とおっしゃっていたと思うのですが、何か聞くと、それぞれが解こうとしている、国の責任もそうですが、方程式が違うものを見ているんじゃないでしょうかというのが 1 つ目の質問です。

○知事

そういう面もあろうかと思います。これも見る景色によって様々な見解になってくるので。ただ、東京から見るこちらの景色と、こちらから見る景色というのは違うのかなというの、これは常々感じることで、いわゆる東京の人と話していると、やっぱり東京側の考え方になるし、佐賀に住んでいる我々からすれば、納得いく話も多々あるわけなんです。いずれにしても、これは新しい話でありますから、だから、さっきの前提が大事だということになるわけなんです。

で、やはり新幹線の問題というのは佐賀のみならず、これから今、京都と滋賀あたりの北陸新幹線もほぼ同じ論点で、なかなか先に進むかどうか見通せない状況じゃないですか。だから、やはりもともとかなり無理があるところはあると思います。ですので、長崎県さんの気持ちも分かるけれども、それこそ、それで済むのかという話もありますし、じゃ、東海道新幹線とか新潟新幹線のときにはどういうスキームでやっていたのかとか、いろいろ考えなければいけないと思うんです。ただ、今の整備新幹線のスキームは、地方は闇雲に新幹線が欲しいんだという、人たちがだということを前提にできているスキームなので、そんなことはないということは申し上げておきます。

○朝日新聞

もう 1 つだけ。基本的にはさっきの新幹線の話で確認したいんですけど、知事と国交省の認識のずれ、要するに、フリーゲージトレインがなかった場合もあり得るみたいなことが最初から言われていたかのように言われていたと。そこを知事が、あれっ、おかしいなと思われたのは、今回の水嶋さんとの話が初めてなんですか。

○知事

私が最初にあれっと思ったのは、(鉄道運輸機構の)藤田理事長が、西九州新幹線はこれで建設終了みたいな話を、私にご挨拶に来ていただいたときに、何か 6 者合意の話をしていたときにそういう、ちょっとそのニュアンスが、最初からそうじゃなかったですよと、できるか分からなかった前提ですよとされたので、えっ、何か違うなと私が押し返したと思って、そこの勘違いかなと思っていたら、次にまた水嶋さんが来て、また同じような話をされたので、あれって、何か話が違うから、ちゃんともう一回、部にチェックして、そんなことがないかどうかと指示をしたら、いや、一切ありませんと、そんなできないことを前提に議論をなされた、ましてや、フルなんて話はなかったということであつたので、改めて今申し上げているし、副知事や部長からも、向こうの次長とか課長には話をさせていただいているところです。

令和7年8月8日 知事定例記者会見[抜粋]

○毎日新聞

おはようございます。新幹線で現状の課題でお伺いします。

来週ですかね、長崎の知事さんとか JR の社長さんをお呼びして、県庁でお話合いがあるということをお伺いしました。改めて、今の時期になったいきさつ、あるいは狙いなどについてお話しいただければと思います。

それと関連して、以前から北陸新幹線のことを参考におっしゃっています。先日、先月ですかね、大阪は早期開業を見送ったというようなニュースもありました。北陸新幹線を参考にということで何かお話いただけるようなことがあればと思います。よろしくお願いします。

○知事

ありがとうございます。

そうですね、まず佐賀県はもともとフリーゲージトレインで合意をしてというところは皆さんもご案内のとおりだと思います。もともとフル規格の新幹線というものはまだ合意が何みなされていない状況だという前提があります。

私は、ちょうどこの前の参議院選挙のときに、石破総理が長崎を訪れたときでしょうか、私が聞いたのは、佐賀県からの納得を得ることはフリーゲージトレインを断念した国の責任、改めて国の責任だということには言及いただいたということと、併せて佐賀県がメリットがないと考えるのは当然とまで言っていたと聞いております。この報道はあまりなされていないようですけれども、いわゆるポイントはちゃんとついているのかなと。佐賀県は在来線を通るのであればあまりほかに影響がないし、負担もほぼないので、在来線が通るだけですから。ということでの合意だったので、改めて新線を造るということになると全て佐賀県の領域ということになるので、我々からすると与党 PT というところに呼ばれたりしましたが、フル規格新幹線については手も挙げていない状態だということを改めて申し上げておきたいと思いますし、だから我々も、報道の皆さん方にも「未共用」とか「未〇〇」と言ってほしくないということを散々申し上げてきたところなんです。

だから、佐賀県は合意したことについては守りたいとずっと思っていたし、山口県政になっても、これまでの知事が決めたことも守っていかなければいけない、それは佐賀県は信用を大事にしている県だからとずっと申し上げてきたわけなんです。

今回、北陸についてはルートも全部決まっていたんだけど、それでもルートの問題からして、こうやって決まっていたことにもかかわらず、またこうやって問題が起きるわけですから、私は佐賀県としては誠実だと思うんです。その前にちゃんと決めたことを守る。だから、いいかげんな決め方はしたくないわけでありまして。そのところをぜ

ひ分かっていたきたいと思うので、それでもなかなか交渉というか、決まったとおりなかなか進まない北陸の問題というものも含めて、これは何なんだろうね。新幹線の課題って、やはり受益と負担の問題もリンクを必ずしもしていないとか、国自体、特に我々のところからすれば、発注していたフリーゲージトレインが届かなかったという、国が断念したことによってという、もう一つ大きな要素が加わっているわけですから、私はそういう状況であることをみんながわかった上で。普通考えれば、そこ何で通っていないのと、何も分かっていない人がそうやって思うに決まっているんです、世の中の人って。だけど、やっぱり物事というのは経緯があるわけで、短絡的に考えてはいけないと思うんです。なので、かといって、じゃ、佐賀県は別に発注していないから、フル規格のものについて一切耳を貸さないなんて言っているわけじゃなくて、ずっと「幅広い協議」とか、それから、長崎県や JR と話し合いはいいよと、むしろしていきましょうというところで門戸を開いてきたわけなんです。なので、ただ「幅広い協議」にしても、三者協議にしても、なかなか予定が合わないねということでこうなってきたんだけど、今回はちょっと時間が短いかもしれませんが、なかなか JR さんと長崎県の都合が合わなくてあまり時間は取れないんだけど、この北陸新幹線を題材に、三者で今回は一旦時間がつくれるということで、8月19日に佐賀県庁で三者でお会いするという。そして、お会いした後に、また報道の皆さん方にそれぞれ意見を述べるという機会を設けることにしたわけです。

○佐賀新聞

先ほど幹事社からの質問の中で新幹線の話が出ていましたけど、それに関連して、在来線特急の本数が今後、開業3年間のところで一応14本ということがあったんですけども、その点に関して今後 JR に求めることは、そういう三者協議の場でも議題になっていくのかとか、そういうところを知りたいんですけど。

○知事

そうですね。今回三者の議題に当たるかどうかは別として、古宮さんには話をしたいと思います。やはり鹿島、太良の影の部分というのは、ずっとこれは残っているわけで、本数が激減しているということに関して、これは JR 九州は新幹線は予定どおり通ったんだけど、武雄から西ですね。なんだけれども、その部分、やはり影の部分が明確に出ているということについては、これは JR 九州としてもしっかりと考慮して本数についても対応していただきたいと思っております。

○佐賀新聞

最終的に何本にしてとか、そこら辺のラインはまだですか。

○知事

少なくとも現行維持をしてほしいと思っているんです。フリーゲージトレインが遅れる

というときに出した 6 者合意というのがあって、ただ、あれはフリーゲージができることを前提として、それで 3 年間だけという話でもあったし。それを考えてみたら、もともとあの 6 者合意のときに、江北の駅から武雄温泉駅までの間は順次複線化すると書いてあるんですよ。その約束も反故(ほご)にされているので、本当にいかがなものかと私は思います。

なので、そういったどんどん短期的な視点で前に進めばいいんだという考え方ではなくて、もっと人の気持ちも考えながら、そういう地域のことも考えながら、みんなでやっていかないと、やはりその先に行くことに対して極めて不信感とか、不安になると私は思っています。

令和7年7月15日 知事定例記者会見[抜粋]

○NHK

もう一点なんですが、新幹線の件で、先の定例県議会の中で知事から地元 3 者のトップ協議について、北陸新幹線の大阪延伸の問題を議論の切り口にしてはどうかというところで話があったんですが、その後の今の協議の進捗と申しますか。

○知事

私は「幅広い協議」にしても、3 者協議にしても、いつでもどうぞということなんですけれども、がむしゃらに佐賀県から強く我々がスケジュール管理してやる話ではないなと思うんですけれども、ただ、特に、北陸を題材に話し合ってみるのは有意義じゃないでしょうかという話、これは私のほうからさせていただいたので、日程調整をやっていくんですけれども、8 月にも 2 案ぐらい出したけど、駄目と言われたと言っていましたから、なかなか 3 者がそろうのは難しいのかなと思ったりもしていますけれども、それでも我々は常に門戸は開いておりますし、協議すること自体は意義があると思うので、また折を見て声をかけてみるというか、あちらから声をかけていただいてもいいんですけれどもねと思います。